

秋田駅東支店と矢留支店にJ Aバンクあきた優績表彰

令和2年度の信用事業でのJ Aや店舗の優れた業績を称える「J Aバンクあきた優績表彰」が発表され、優績店舗表彰「メイン化部門」の優秀賞を秋田駅東支店が、奨励賞を矢留支店が受賞しました。秋田駅東支店は「貸出部門」の優秀賞にも輝き、同部門での受賞は2年連続です。「秋田県J A信用・共済事業合同推進大会」で表彰式が行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの感染予防のため中止となったため、6月10日(木)にJ A秋田なまはげ会館で各支店長へ表彰状が贈られました。

今年度も、信用業務を通して皆様のよりよい生活のサポートに努めてまいります。



表彰状を受け取った支店店長ら

スナップエンドウ目揃え会

6月15日(火)、スナップエンドウの目揃え会が船越多目的施設で開かれました。生産者ら約20名が参加し、選別基準や集荷スケジュール、他産地の動向などを学びました。

男鹿地区営農センター管内では、5月1日(土)から出荷が始まりました。同センターの職員は「これから特に心配なのは病害虫。収穫期に入ると使用できる農薬が限られてくるため、農薬の使用時期に気を付けて防除作業に励んでほしい」と呼び掛けました。

参加者は等級ごとのスナップエンドウを手に取りながら、収穫適期や病害虫防除の方法などについて意見を交わしました。



スナップエンドウの等級基準を確認する生産者

直売向き野菜の特性を学ぶ

6月17日(木)、直売所出荷に向けた野菜の栽培講習会が追分生活センターと雄和支店で開かれ、生産者約40名が参加しました。(株)高井南茄園の金野豊秋常務を講師に迎え、これから栽培時期を迎える野菜の品種特性や栽培方法などを学びました。

金野常務はダイコンやカブ、ハクサイなどの作型や食味などを品種ごとに紹介し、直売所での需要傾向や生産資材、種子の流通動向も併せて解説しました。参加者からは普段の野菜栽培で感じた疑問点などが質問され、栽培スケジュールや播種時の施肥方法、結実を増やす管理方法などが話題に上がりました。



野菜に有効な生産資材も学びました

枝豆現地研修会

6月21日(月)、枝豆の現地研修会が(農)アグリかなあしの圃場で行われました。生産者ら約40名が、管内での農作業の進捗状況や今後の生育管理、共選設備などを確認しました。

秋田地区営農センターの営農指導員は「今年の枝豆は草丈が低く感じる。開花期前に葉面散布を、開花後はリン酸系資材を使って生育を促進させてほしい」と呼び掛けました。秋田地域振興局農業振興普及課の担当者は「これからの梅雨期は、特にべと病に注意。天候のいいときに、積極的に作業してほしい」と話しました。

管内産の枝豆の出荷は、7月中旬から始まる見込みです。



枝豆の今後の管理方法について意見を交わす参加者

